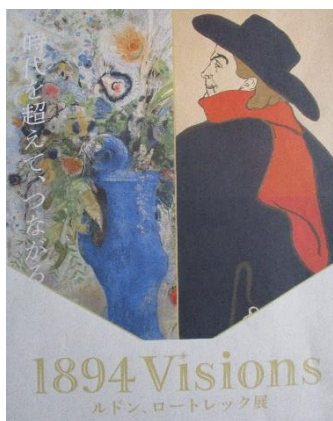


1894 Visions ルドン、ロートレック展

三菱一号館美術館(東京・丸の内) 2020.10.24~2021.01.17



本展は、当館が竣工した1894年に注目して、「岐阜県美術館」との共同企画で、コレクションの中核をなす画家である「ルドン」と「ロートレック」の時代に焦点を当て国内外「100点」もの作品で構成され、「ルドン」が描いた「植物」に焦点を当てた世界発の展覧会である。(一部展示替えあり)

オディロン・ルドン 《グラン・ブーケ》 1901年 パステル/カンヴァス

「オディロン・ルドン」(1840~1916)は、象徴主義(目に見えないもの、精神世界、想像の世界などを視覚し、自己の内面を表現した)を代表するフランスの画家・版画家で、鉛筆や木炭、版画で黒(ノワール)と呼ぶ作品群(奇妙な怪物の石版画や木炭画)を制作し、色彩に頼らない独自の世界を生み出した。

本作は、フランス東部のブルゴーニュ地方のドムシー城の食堂を飾る装飾画で、秘蔵の花束を描いたもので、両側に外光の入る大きな窓を従え薄明の中に逆光の効果を生みながら、画面一杯の大きな花瓶の数多くのブーケの表現に強い表現性と象徴性が認められる。パステル画としては破格の大きさの花瓶は、鮮やかな青を主調に紫や緑、橙などの華を配した華やかで多彩な色調が使われ、周囲のパネルとは一線を画した画面が現出している。

トゥルーズ・ロートレック 《アリスティド・ブリュアン》 1893年 リトグラフ

御馴染みのいで立ちの「ブリュアン」を1作目の「アンバサドゥール」のポスターから、さらに簡素化して描いた名作である。無駄のない力強い線に囲まれた平坦な色面で、「ブリュアン」の存在感を際立たせていて、不適な笑みと堂々とした立姿に「ブリュアン」のカリスマ性が見事にアピールされている。